

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



河村 雅章 (東京/92期)

(立川記念は)自分にとっては一番重要な開催なんで、そこに向けてやっています。最近感触も良くないし、流れの方も悪い。悪循環ですかね。ただ、レースは作れているんで、状態を戻すことに集中したい。できるかぎり調子上げて、自分の力を出し切れるように。地元だからいいレースができるように頑張る。



山崎 充央 (東京/79期)

今年(18年)はアマチュアの面倒を見たり、充実した1年だったと思います。立川はホームバンクなので、ここだけは気持ちが変わります。今年はS級に復帰して、立川のF1は2回決勝に乗れた。優勝したいとか勝ちたいとかではなく、とにかく気持ちだけは誰にも負けないように。それだけです。

勝瀬 卓也 (神奈川/84期)

11月に富山、豊橋とF1戦を制すなど昨年は後半戦に入り一気に調子に戻してきた。昨年前半の不調は当所記念の落車から。蘇った鋭いキメ脚で今年は年頭からロケットスタートを決める。



佐々木 孝司 (青森/84期)

前期、S級に復帰してからは白星を量産。9月青森、11月小松島では準決勝1着で決勝に勝ち上がっている。勝ちパターンがまくりという点も直線の長い当所向き。格上相手でも一発ありそうだ。



戸田 康平 (香川/101期)

もともと脚はある選手。戦う気持ちが戻り、9月青森記念では9②②③着と立て直しの兆しを見せていた。10月千葉記念の落車で上昇ムードに水を差された感はあるが、期も新たにここから攻めのレースを見せる。

S級 ブロックセブン

1/7 (最終日) 9R

ブロックセブンとは

「推理しやすい、わかりやすい、的中しやすい」をコンセプトにした、競輪独特の「地区」の色合いをより濃く打ち出したS級7車立ての新たな単発レース。

もまくり、差して浮上。
G1戦線に本格的に登場し、結果を残し始めた芦澤辰弘が対抗する。目標の山本紳貴も力を付け、バックを取って粘るレースが増えてきた。芦澤には腕の見せ所となりそう。モツれると渡部幸訓

新春開催のブロック7は古性優作が主役を務める。18年の古性はVこそ2月静岡記念のみだったが、レースのグレードを問わず常に存在感を発揮。賞金ランクもGP出場にあと二歩の10位まで押し上げた。輪界トップに君臨する脇本雄との連係を念頭に、最近は大坪脚をより磨くことに重点を置いており、こもシンプルながら力戦で決着を付ける。古性の番手は中近で佐藤互か、大坪功一か。鋭脚大坪がマークなら両者で決着しそう。

存在感際立つ
古性優作



古性 優作